

①しつけ

さて、ふせ、ケージ内での生活に慣らす、トイレトレーニングなどの訓練をしておきましょう。

誰にでも好かれる動物が結局生き延びる！飼主と離れてしまっても助けようとしてくれる人は必ずいます。そんな時日頃のしつけがものを言います。お手お座りだけがしつけではありません。



②迷子対策

飼主明示（鑑札や狂犬病予防注射済票、迷子札、マイクロチップ等）を忘れずに。

災害への備えは想定外を想定して！複数頭飼育の飼主は特に注意を！飼主がそばにいてあげられるとは限りません。迷子札やマイクロチップは万が一脱走した際にも役立ちます。装着のために日頃から首輪にも慣らしましょう。



③健康管理

ワクチン接種、寄生虫予防対策は済ませておきましょう。

避難所では予想以上に高密な生活を強いられる！人への感染や動物同士の相互感染を起こすペットは受入を拒否されます。狂犬病ワクチンや混合ワクチンの接種は済ませておきましょう。ノミ、

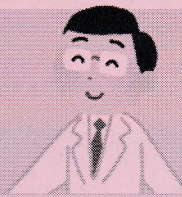
ダニ、腸内寄生虫の駆除と予防も日頃から行いましょう。



④緊急の預け先の確保

避難所生活の継続が困難な場合の預け先を複数準備しておきましょう。

しばしの間離れ離れになることがお互いのためになることも！避難所生活ができないことも想定して、いざという時に預かってくれる親族や友人、施設も考えておきましょう。



⑤必要備品の整備

ペット用持出袋にフード等を準備しておきましょう。必要な物資がすぐに届く保証はありません。

ケージ、首輪、リード（伸縮性の無い物）等は使い慣れた物に名前を書いておきましょう。ケージは避難時にかさばらないよう、組み立て型の物がおすすめです。猫はケージを覆う

布があると安心します。



ペット用 持出袋（例）

- ①フード、水、薬 最低でも5日分は必要。フードはドライが軽く持ち運びやすい。治療食は特に入手困難なので1～3kgの小袋を用意する。
- ②ペットシート 古新聞もあると便利。
- ③飼育手帳 飼主の情報、ペットの名前、性別、ワクチン接種履歴、病歴、服用中の薬を記載し、写真を貼っておく。